

地域産業委員会行政視察報告書

1 日程

平成 30 年 8 月 28 日（火）～ 30 日（木）

2 視察先及び視察項目

（1）鹿児島県鹿児島市

①明治維新 150 年カウントダウン事業について

②「維新ふるさと館」の現地視察

（2）鹿児島県

鹿児島県の「西郷どん」キャンペーンと「江戸無血開城150年」大田区企画事業の連携について

（3）福岡県福岡市

クリエイティブ関連産業の振興におけるゲーム産業振興について

（4）公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団

国際交流の促進・在住外国人及び外国人学生の支援・グローバル人材育成の各事業について

3 視察委員

○ 委員長	大 橋 武 司	大田区議会公明党
○ 副委員長	長 野 元 祐	自由民主党大田区民連合
○ 委 員	田 中 一 吉	自由民主党大田区民連合
	伊 藤 和 弘	自由民主党大田区民連合
	田 村 英 樹	大田区議会公明党
	小 峰 由 枝	大田区議会公明党
	藤 原 幸 雄	日本共産党大田区議団
	黒 沼 良 光	日本共産党大田区議団
	荻 野 稔	たちあがれ・維新・無印の会

4 視察項目の概要・所感

【所感】は、項目ごとに各会派としての所感を記載。

（1）鹿児島県鹿児島市

◆視察項目

明治維新150年カウントダウン事業について

【概要】

平成30（2018）年に、明治維新（1868年）から150周年という大きな節目を迎える。鹿児島市では、明治維新に至る歴史を、ストーリー性をもったPR素材として県内外に情報発信することにより、観光振興をはじめ、地域経済の活性化を図るため、第5次鹿児島市総合計画の目玉事業の一つとして、本事業を実施している。

事業としては、平成30（2018）年に向け、平成24年度から7年間、その年ごとに近代日本の礎を築いた鹿児島に関わりが深い出来事を題材とするイベント等を開催している。

（鹿児島市視察資料から引用）

事業の目的と推進施策の相互関係



（鹿児島市ホームページから引用）

【所感】

(自由民主党大田区民連合)

明治維新150周年を迎え、日本全国で記念行事やカウントダウン・イベントなどが行われているが、明治維新の原動力となった薩摩藩を擁する鹿児島市は、平素から幕末・明治期の歴史遺産を観光客誘致の目玉として掲げており、また市民の意識も高いため、非常に成功している事例と言える。

幕末・明治期の史跡が市内の限られたエリアに集積されており、相互が連携し回遊性を確保していることが大きな特徴と言える。石碑や銅像などが散在しているため、一つ一つは大きな観光資産ではないものの、街全体に歴史ロマンを感じさせる雰囲気醸成されており、日本史の大きな変動期の現場に立ち会っているということを実感させることに役立っている。この点では京都、鹿児島は際だっており、大田区として並び立つことは難しいということも実感された。勝海舟記念館事業においても、建物そのものだけでなく、周辺一帯を含めた雰囲気作りが重要であるとの認識を新たにした。



※取り組みの一つとして整備された
維新ふるさとの道を視察する委員

(大田区議会公明党)

鹿児島市は「稼ぐ観光」の実現に向け全庁的な取り組みをしている。

平成24年から、生麦事件・薩英戦争など、各年毎にテーマを掲げ気運を盛り上げる「明治維新150年カウントダウン事業」に取り組み、それに平行して篤姫に続く大河ドラマの誘致を図る。大河ドラマ「西郷どん」が決定すると、細部に渡り柔軟な現場重視の対応を重ね、更に、市民参加イベント・国内外都市との交流などの施策を広げ、おもてなし体制を盤石に拡充している。

鹿児島市全体で盛り上がりを見せているのは、小学5年生から始める西郷隆盛を中心とした歴史を学ぶ授業で、日本を動かした偉人が誕生した街への郷土愛と誇りの醸成が大きなベースとなっていると感じる。

本事業の目的・推進方針に、1. 市民の郷土「鹿児島」への誇りと愛着の醸成。2. 次代を担う青少年の育成。3. 観光振興をはじめとする地域経済の活性化。とあるが、鹿児島市は、市民の気運醸成の大きな流れをつくるため、行政として積極的に関わり、「時を創っている」と感じ、本区にも生かしていきたいと思った。

(日本共産党大田区議団)

明治維新150年事業、大田区との関係では勝海舟と西郷隆盛との江戸無血開城が有名ですが、いまNHKで放送されているテレビドラマの影響もあり、鹿

児島市の観光や地域経済での効果が、どのように現れてくるのか、集計が楽しみですが、この事業の裏側では、市民の暮らしや福祉分野には影響がないのか、関心をもってお話を聞いていた。

鹿児島市と市民にとっては、全国発信と県民への発信でなみなみならぬ取り組み、力の入れようが担当者を通じて実感できたことは間違いないと感じました。

(たちあがれ・維新・無印の会)

鹿児島市の明治維新150年カウントダウン事業を視察した。大田区も勝海舟記念館など、明治維新にまつわる大田区の歴史上の人物がおり、連携も期待したいところだが、ホームページ、市内全体の事業を見ても、市内の様々な建物、団体との連携において違いを感じた。

大田区も、記念館や一部地域に限らず、区内全体での明治維新PRを目指すべきである。



◆視察項目

「維新ふるさと館」の現地視察

【概要】

幕末の薩摩と明治維新の全てが一目で分かる歴史観光施設。多彩な演出で2本のドラマが楽しめる維新体感ホールをはじめ、篤姫コーナーや郷中教育体感コーナーなど、テーマごとに資料を展示している。

館内施設写真

●大河ドラマシアター（1F）



維新ふるさと館ホームページから引用

●維新体感ホール（B1F）



●テーマ展示室（B1F）



現地視察をする委員

●薩摩の偉人・英雄列伝（1F）



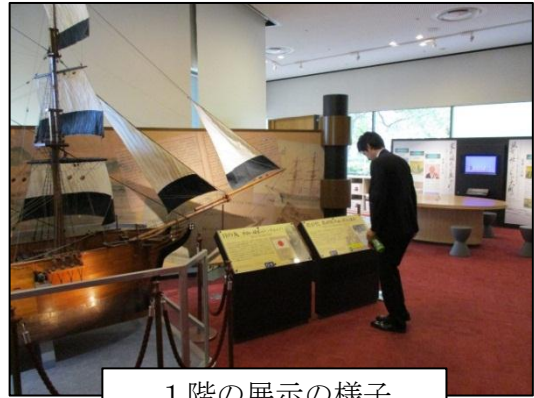
【所感】

（自由民主党大田区民連合）

鹿児島市が設立、運営している「維新ふるさと館」は名称の通り幕末・明治維新期に活躍した薩摩藩の偉人たちを紹介し、その生き方や業績を伝えるための施設である。個人ではなく、郷土の偉人たちという枠でスポットを当てることにより、より郷土愛を実感させ、観光客を満足させるだけでなく、地域の住民にとっても生まれ育った地を誇りに思える展示となっている。

扱う人物や題材が多いため、世代や関心・知識の深さを超えて幅広い来訪者が満足できる構成となっている。特筆すべきは一つ一つは小規模であるが、体験型の展示が多いことで、ただ見物するだけではなく、能動的に楽しむことができるため、小さい子どもであっても飽きさせずに長時間の滞在が可能となっている。

人物だけではなく、時代背景や技術などの展示も豊富であり、知識が乏しい来訪者でも、同館で初歩的などころから学ぶことができるよう配慮もされている点も特筆すべき特徴である。



1階の展示の様子

(大田区議会公明党)

2,300 m²程の「維新ふるさと館」ではあるが「ここは1日居られる」と観光客が発言していた。

現代にマッチしたハイテクを駆使しながらも、当時の時代を体験型で丁寧に追ってゆく内容だったと感じる。クイズもバーチャル技術を活用していたり、「郷中教育と相撲」のコーナーでは西郷どんの手のひらを押して力量を計りながら当時の教育を体感できる。「維新体感ホール」では1日に13回、ドラマが放映されており、学んだ歴史を手の届くところで触れることができる仕掛けになっており、ターゲットは小学生から大人までと幅広い。

この館とは別に、NHK大河ドラマに合わせ、一年間限定でプレハブで建てた大河ドラマ館などもあり、市民が参加する「おもてなしステージ」なども近隣に配置し、市民を巻き込んだ街づくりに徹している。

横串施策で市民の力を結集することで、相乗効果も生む取り組みは大変勉強になった。

(日本共産党大田区議団)

維新ふるさと館は、一目みてその時代がどうだったかがわかる展示でしたので、その取り組み（特に地下での写真や映像）は特によかったが、私のような年代だからかもしれない。

現代の20代・30代にももっとわかる方法、例えば、西洋では同じ年代はこうだったとかをもっと打ち出してはどうだったか。

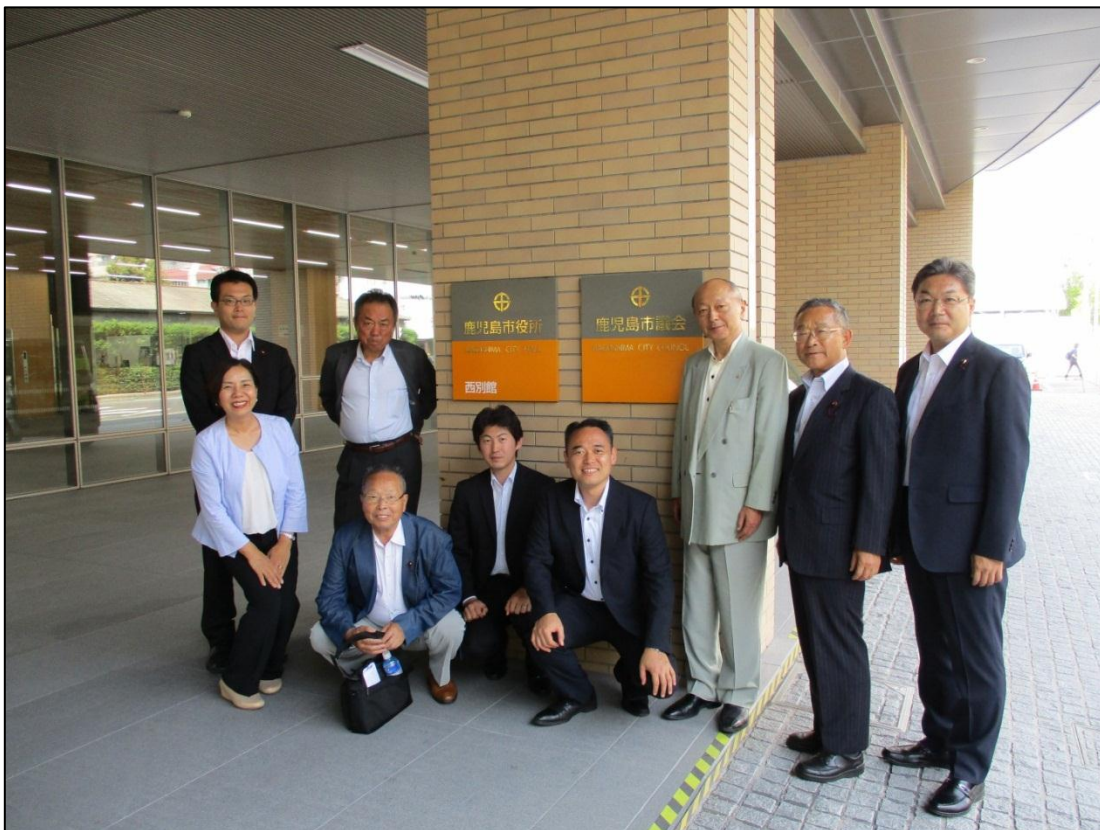
県外からの観光客だけでなく鹿児島県民、市民の参加がどうなっているのか、地元の方々に話をきいてみたかった。

数年前に放送された「篤姫」の着物や江戸城での暮らしなどの展示もあったが、いまだに鹿児島では人気があるのだと感じました。

(たちあがれ・維新・無印の会)

鹿児島市の明治維新150年カウントダウン事業の視察に続いて、鹿児島市の維新ふるさと館を視察した。館内では西郷隆盛や篤姫などを扱った展示物、映像、薩摩藩の脱藩、死刑覚悟の海外留学など、様々な過去のテーマについての紹介が行われていた。大河ドラマに使用されたセットなども飾られていて、懐かしさも感じた。

大田区は勝海舟記念館であるが、そうした様々な映像、作品などの展示、紹介まで踏み込んでいるだろうか。明治維新と大田区、大田区に縁のある人物、出来事などを取り扱った作品などとの連携も図り、区民に更に愛着を持っていただくよう努めたい。



(2) 鹿児島県

◆視察項目

鹿児島県の「西郷どん」キャンペーンと「江戸無血開城150年」大田区企画事業の連携について

【概要】

鹿児島県「西郷どん」キャンペーン

平成30年の大河ドラマが鹿児島ゆかりの偉人「西郷隆盛」を描く「西郷どん」に決定したことを受け、放送を契機とした誘客活動を推進するため、「西郷どん」キャンペーンの公式ウェブサイトの開設や、西郷隆盛をはじめ、ゆかりの深い人物、場所等を活用するための誘客ツールとしてのロゴマークとキャラクターイラストの作成等を実施している。

大田区等との連携プロジェクト

150年前、西郷隆盛と勝海舟の会見により、江戸城無血開城を成し遂げたことを縁（契機）とし、大田区と鹿児島県等では、それぞれへの誘客等を目的とした「どんと来い！幕末・明治プロジェクト～「江戸」を救い、「東京」を創った出会い～」を展開している。

(鹿児島県ホームページ、鹿児島県視察資料から引用)



●プロジェクトの第一弾として、区内の銭湯（大正湯）に描かれた西郷隆盛。

(大田区観光サイトから引用)

【所感】

(自由民主党大田区民連合)

鹿児島県が実施している「西郷どん」キャンペーンと大田区の「江戸無血開城150年」企画の連携事業について、観光客誘致に主眼を置いている鹿児島市に対し、対外的な連携等でのアピール・広報を行う鹿児島県の取り組みを視察した。

鹿児島県はこれまでも、長崎市や大分市などの九州各県の自治体とも協働で幕末・明治維新を題材として観光PRキャンペーンを行ってきたが、今年の明治維新150年に際しては、勝海舟・西郷隆盛の縁をクローズアップした「西郷井・勝井」キャンペーンなど、積極的に大田区とも連携することとなった。

地理的に遠く離れているため県民・区民同士の相互交流等に発展させるには課題があるものの、行政として共通のテーマでタイアップすることができた好機を活かし、大田区としても積極的に鹿児島県の持つ強みを活かし、観光客誘致に相互利益が生み出されるよう、今後も関係を深めていくことを確認できた。

(大田区議会公明党)

鹿児島県観光課では「平成30年度 観光振興施策体系」において、①魅力ある癒しの観光地の形成、②戦略的な誘客の展開、③オール鹿児島でのおもてなしの推進という3指針を示し、このうち国内観光客の誘致施策では『大河ドラマ「西郷どん」キャンペーン事業』を推進。本事業では、ドラマの撮影地への誘客を図るための観光基盤の整備や各種イベントを開催するとともに、SNSを活用した情報発信、広報・広告などのPRに取り組んでいる。

この事業の一つが、西郷隆盛と勝海舟の会見によって、江戸城無血開城が成し遂げられた歴史的事実を題材とした「どんと来い！幕末・明治プロジェクト」で、大田区内の銭湯での銭湯絵や期間限定のオリジナル井の提供、また、ゆかりの地を巡るスタンプラリーなど、両自治体における観光事業が進められている。

今後、鹿児島県では、明治維新150周年をはじめ様々なコンテンツを活かし、観光客の誘致に取り組んでいくとの事で、本区との事業継続に期待する。

(日本共産党大田区議団)

150年前に起こった明治維新において、鹿児島と、江戸の南に位置している当時の大田区とは違いが大きすぎて、同じような150年史での取り組みはむずかしいと思った。

大田区の発展は、一つには東京湾の大森・羽田、もう一つは蒲田を中心にした工業の発展があつて戦時中から戦後にかけての急速な発展があり、大田区のものづくりの発端になった歴史や戦時中と戦後の歴史、産業等についての展示企画はできるのではと思った。

(たちあがれ・維新・無印の会)

実施主体として、大田区・品川区・観光かごしま大キャンペーン推進協議会（鹿児島県）・東京急行電鉄株式会社・大田区商店街連合会が参画した本事業。大田区のホームページには、『今年は、江戸無血開城150年の年です。大河ドラマ「西郷どん」放映に伴い、幕末・明治維新にさらに注目が集まっています。大田区には、勝海舟の墓所があり、来年夏には「(仮称)勝海舟記念館」が開館するなど、勝海舟とゆかりの深い地です。勝海舟は西郷隆盛とともに、江戸無血開城を成し遂げたとされていることから、西郷隆盛出身の地である鹿児島県と協力し、両地域への誘客等を目的としたプロジェクトを実施します。』（一部抜粋）とある。

テーマ、取り組みは魅力的であるが、単発、一時的なものという感じが強かった。鹿児島県と西郷隆盛のように、区民にもっと江戸城無血開城、明治維新との関係を認識し、愛着を持ってもらうよう日頃からのPR、啓発が必要であると認識した。



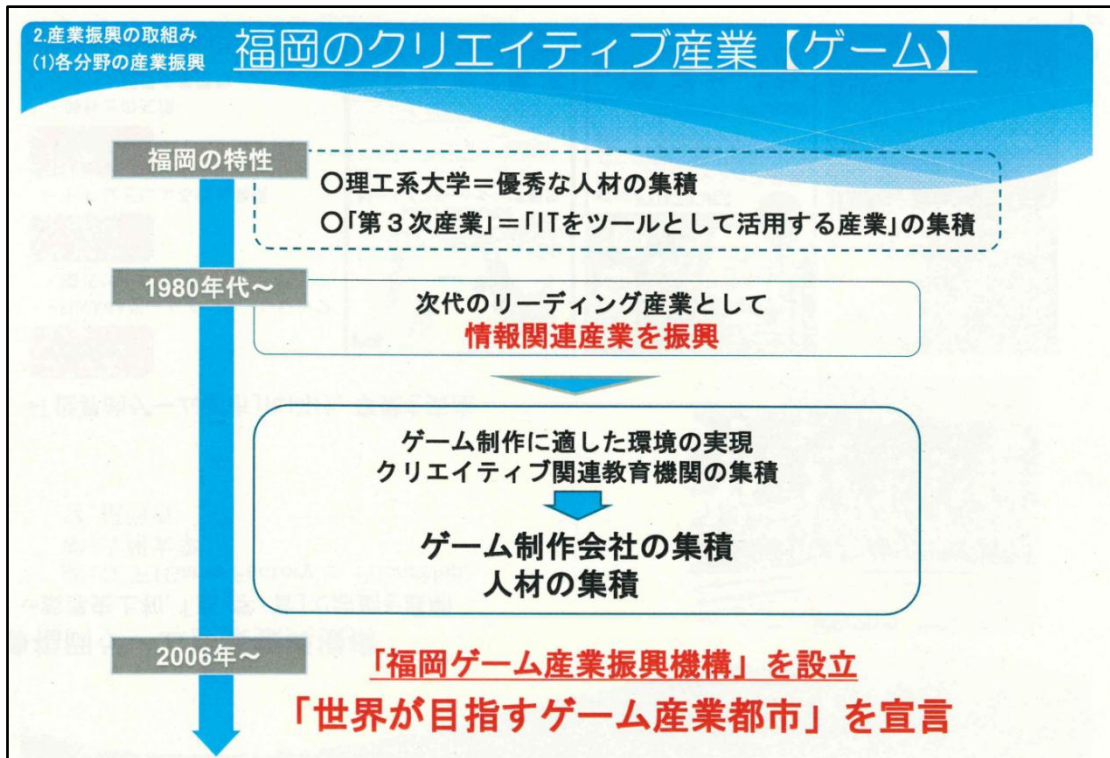
(3) 福岡県福岡市

◆視察項目

クリエイティブ関連産業の振興におけるゲーム産業振興について

【概要】

福岡市は、クリエイティブ関連産業の振興、その中でも特にゲーム産業の集積を目指している。福岡ゲーム産業振興機構では事務局を務め、人材育成・発掘のためのインターンシップ事業や国内外への情報発信・広報活動に取り組んでいる。



●福岡ゲーム産業振興機構

- ▶業界史上初、「産・学・官」で活動を展開
 - 産:GFF(Game Factory's Friendship)
 - 学:九州大学
 - 官:福岡市



▶「世界的ゲーム都市」に向け、事業を実施

人材育成

- ・FUKUOKAゲームインターンシップ
- ・福岡ゲームコンテスト

広報

- ・HPなどによる情報発信

市場開拓

- ・海外との交流
- ・ゲーム関連企業誘致



(福岡市視察資料から引用)

【所感】

(自由民主党大田区民連合)

現在、地方都市で最も活力があり「最強の地方都市」として多くの書籍などでも紹介されている福岡市において、その力の源泉である若者と外国人のパワーを用いた先進的な取り組みの一環であるクリエイティブ関連産業、その中でも特色あるゲーム産業の振興について視察を行った。

福岡市が工業中心の産業形態から第三次産業中心へと移行を図ったのは1980年代に遡る。アジアのハブとして機能していた福岡市の地理的特性と、大学が集中立地しているメリットを活かし、新しい事業にチャレンジしやすい土壌づくりに注力できる環境が、現在の福岡市のクリエイティブ産業の隆盛につながった。

クリエイティブ産業は製造業や物流業と異なり大きな土地を必要とせず、大規模な設備投資をしなくても人材が確保されればスタートアップができるため、都市部での産業として非常に有利である。周辺大学が輩出する若い人材が他に流出せず地場で就業しやすいことや、開業するハードルが低いため、都市の特性を活かした非常に示唆に富む産業振興の成功例である。

大田区としても時代の変遷に伴う業態変換として、福岡市の成功例は大いに研究に値すると考える。

(大田区議会公明党)

福岡市は、福岡空港を中心としたアジア圏域とのビジネス交流をはじめ、都市機能のコンパクト化による高い交通利便性、また市内に立地する複数の大学機関からの人材の糾合など、新規創業に対して好条件が重なる性格を活かし、1980年代から情報関連産業を振興してきた。

2004年に民間団体であるG F Fが発足したことも後押しとなり、市では2006年に福岡ゲーム産業振興機構を設立し、クリエイティブ産業の創業支援・振興を開始。市への企業集積を図るため、①人材育成、②広報、③市場開拓を推進してきた結果、2006年当初の12社・418人から、現在では34社・1,715人に成長。こうした事業振興をさらに加速させるべく、フィルムコミッションや国際映画祭、また様々なイベントとの連携に取り組んでいる。さらに、次世代のクリエイター創出のための人材育成拠点の整備も進めているなど、福岡市の積極的な取り組みを伺い、大田区内の第三次産業分野の振興に対して参考とするべきと考える。

(日本共産党大田区議団)

クリエイティブ関連産業の振興について、G F F・九州大学・福岡市が大変連携している実態がつかめたが、今後のものづくり産業、大田区との関連ではどうなのか、分からなかった。

(たちあがれ・維新・無印の会)

福岡ゲーム産業振興機構が取り組む、ゲーム関連企業へのインターンシップ、学生及び一般アマチュアを対象としたゲームコンテスト、海外展開やイベント事業について視察した。ゲーム企業の集積では、10年前とくらべ市内のゲーム企業の企業数は12社から31社に、従業員数は約千名増加など、成果を上げている。福岡市の置かれた環境に増加の理由があった。

福岡市は海外20都市への定期航空路線を持ち、東京や上海にも約90分、福岡空港にも博多駅から約5分で行けるといふ恵まれた環境にあり、若者・女性が多く、政令都市の中で、人口に占める若者率が19.2%、その内、女性の割合が51.3%と、共に1位。更に人口千人あたりの学生数が51.8人（政令都市中2位）となっている。

理工系や専門学校などの教育機関も充実。他にも安価なオフィス賃料、アジアへの交通拠点などの好環境が市の施策を後押しした。

羽田空港に隣接する大田区を含んだ城南地域には、参考となる点が多い。



(4) 公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団

◆視察項目

国際交流の促進・在住外国人及び外国人学生の支援・グローバル人材育成の各事業について

【概要】

・代表者	: 理事長 藤永 憲一 (福岡商工会議所会頭)
・合併登記日	: 平成 26 年 4 月 1 日 (公財)よかトピア記念国際財団(平成 2 年 6 月設立)と (公財)福岡国際交流協会(昭和 62 年 3 月設立)が合併
・基本財産	: 32 億 5,220 万円 主な内訳 アジア太平洋博覧会協会寄付金 22 億 9,600 万円 福岡市 9 億円
・役員等	: 理事 7 人、監事 2 人、評議員 7 人
・事務局	: 18 人(市派遣 6 人, 嘱託 12 人)
・所在地	: 福岡市博多区店屋町 4-1 福岡市国際会館 1 階

1. 目的

アジア太平洋博覧会—福岡’89の成功を記念するとともに、アジアに開かれた福岡の歴史、文化、その他の特性を生かした国際交流を促進する活動を行うことにより、市民一人ひとりが多様性を認め合いながら国際的な相互理解を深める多文化共生社会の実現に寄与し、もって、地域の発展と国際平和に貢献することを目的とする。

2. 平成 30 年度事業予算：当初予算額計（現金ベース） 224,378 千円
(内市補助金 102,029 千円)

- (1) アジア太平洋博覧会—福岡’89 を記念する事業・・・32,100 千円
- (2) 市民の国際交流を促進する事業・・・29,477 千円
- (3) 在住外国人及び外国人学生を支援する事業・・・48,503 千円
- (4) グローバル人材を育成する事業・・・20,874 千円
- (5) 人件費、管理事務経費・・・93,424 千円

3. 基本財産運用状況

(公財)福岡よかトピア国際交流財団 基本財産の運用状況

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
68,175 千円	65,611 千円	60,641 千円	55,384 千円	52,180 千円

(福岡よかトピア国際交流財団視察資料から引用)

【所感】

(自由民主党大田区民連合)

公益財団法人「福岡よかトピア国際交流財団」の視察では、受け入れ側の目線だけではなく、来訪者側のニーズをよく把握したうえでの受け入れ態勢整備について、大変に参考にすべき視察を行った。

福岡市はアジアのハブである地理的特性を十分に活かし、特にアジア方面からの留学生誘致を重点として外国人受け入れ施策を講じている。周辺に大規模な大学が多いことから、受け入れのキャパシティが豊富なため、積極的な外国人留学生の招致を行っている。言語のみならず文化の対応を含め、財団では宿舎の運営から各種交流行事や広報イベントなども、強力に推進している。

学生への支援は経済的支援に留まらず、生活支援にも力を入れており、学業や研究に集中できる環境の提供に主眼が置かれている。



施設内を見学する委員

(大田区議会公明党)

福岡の歴史、文化、その他の特性を生かした国際交流を促進する活動、市民一人ひとりが多様性を認め合いながら、国際的な相互理解を深める多文化共生社会の実現に寄与し、地域の発展と国際平和に貢献することを目的として活動されている。

「ボランティア交流の推進」、「語学講座」、「外国語教室」などの国際理解・交流活動、在住外国人及び外国人学生を支援する「一般・専門相談」、「情報提供」、「日常生活アドバイス」、留学生が安心して留学生活を送れるよう居住の場も提供されるなど、とても積極的に取り組まれている。

またグローバルな人材を育成する事業として奨学金制度、就職を希望される留学生と企業とのマッチングに取り組むなど寄り添った支援、その中で企業側から「こんなに優秀な人材がいるとは知らなかった」などのお声が上がっているとの事で、大変素晴らしい取り組みを実感致しました。この度の視察を国際都市おおたに生かして参りたいと考えます。

(日本共産党大田区議団)

(公財) 福岡よかトピア国際交流財団の取り組みは勉強になった。本腰をいれて、アジアの学生、青年を福岡に呼び、語学から仕事まで、きめ細かく取り組んでいる。

先生の一人ひとりに対する援助の在り方などもよく、国内だけでなく国外に行っても活躍できる「人材」が生まれている。

大田区も国際空港がある区として、福岡の取り組みを参考に今後外国の学生・青年を迎えられるようにしたいと思いました。

(たちあがれ・維新・無印の会)

地域産業委員会の視察の最後に、公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団を視察し、国際交流の促進・在住外国人及び外国人学生の支援・グローバル人材育成の各事業について説明を受けた。

財団のホームページを覗くと、ホームページの言語が簡単に切り替える事ができ、100か国語以上の言語を選択できる。各種相談事業も充実をしており、学生など若い外国人を中心に、福岡市の国際化を支える一つの事業としての意義を感じた。

では、大田区はどうだろうか。居住、奨学金、在留、生活など細かい事まで、どこまで対応が出来ているだろうか。今後の国際化の進展と、少子高齢化社会を考えると、外国人が大田区民として、労働だけでなく様々な形で地域、区政を支える事は大きくなる。文化、習慣、生活を外国人に合わせて日本人が変えろという事はない。だが、税金や保険料なども納めてもらう以上、インバウンドだけでなく、区民としての外国人施策をもっと充実させていくべきである。

